

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 10 日現在

機関番号：32514

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2013～2015

課題番号：25580099

研究課題名(和文) 式亭三馬の言語描写における三馬蔵書の影響

研究課題名(英文) Influence of Shikitei Sanba library in language depiction of Shikitei Sanba

研究代表者

長崎 靖子 (Nagasaki, Yasuko)

川村学園女子大学・文学部・教授

研究者番号：60419794

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では式亭三馬の蔵書が三馬の言語描写に及ぼした影響を、国立国会図書館所蔵の三馬蔵書印書の調査から考察し、三馬蔵書印書の分類、三馬蔵書に見られる唐話資料と三馬著書との関係、蔵書印書の識語を資料とした三馬自筆の仮名字体の特徴に関し報告を行った。また、三馬の蔵書を知る手がかりとして使用した三馬自筆の『式亭雑記』の翻刻と平仮名用字法の調査も併せて行った。

これらの調査を通し、三馬の蔵書に見る唐話資料が三馬の言語描写に影響を与えていることを示した。また、三馬の平仮名用字法を知る上で、三馬自筆の識語調査、並びに自筆本『式亭雑記』が有効であることを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：In this study, the effects that the collection of Shikitei Sanba had on language depiction of Shikitei Sanba, was discussed from the survey of the collection of Shikitei Sanba of Diet Library. And the following reports, the classification of the ownership mark of Shikitei Sanba has been stamped, materials of "Colloquial Chinese in Ming, Qing Dynasties: Towa" in the library of Shikitei Sanba, the relationship between the work of Shikitei Sanba and feature of Shikitei Sanba's handwriting written in the book ownership mark of Shikitei Sanba has been stamped, were made. In addition, it was also performed republication of Diary written in the handwriting of Shikitei Sanba "Shikiteizakki." Through these surveys, Towa materials seen in the collection of Shikitei Sanba showed that the effect on the language depiction of Shikitei Sanba. And on to know the hiragana scripts method of Shikitei Sanba, autograph book "Shikiteizakki" is valid.

研究分野：日本語学 日本語史

キーワード：三馬蔵書印書 唐話語彙 三馬自筆の識語 三馬自筆『式亭雑記』 『式亭雑記』諸本 三馬の平仮名用字法 三馬の著作に見る書名

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 式亭三馬の言語描写に関する研究は、坂梨隆三「三馬の白圈(しろきにごり)」について『岡山大学研究紀要』36(1975)をはじめ、棚橋正博(1994)、広川京一(1977)、山本淳(2005)等、白圈という、主に特殊表記の研究を中心に進められている。筆者も三馬の言語描写に関し「式亭三馬の半濁音符に関する一考察」(『近代語研究』第15集2010.10刊行)の中で、「カ行」と「タ行」に付される半濁音符の音とその使用意図について考察を行い、これらが地方人の特殊な発音を描写したものであると結論付けた。この論考を発端に、応募者は式亭三馬の片言描写に興味を抱き、「かまど詞大概の語彙」「諸人片言なをし」等との比較を通して、『川村学園女子大学研究紀要』23-1(2012.3刊行)で、式亭三馬著『小野ばかむら諷字尽』(文化3年)所収の「かまど詞大概」に見る片言を、江戸時代の七種の片言資料と比較し、その影響関係について考察した。また「式亭三馬の片言描写 かまど詞大概を資料として」『近代語研究』第16集(2012.3刊行)で、三馬の著作『浮世風呂』で使用される「かまど詞大概」所収の片言語彙の調査を行い、使用者の階層、使用相手の階層、また使用場面等の分析を行った。その結果、三馬の描写する片言の中には、語彙に関しても使用者に関しても、他の片言資料の記述と共通する点が見られ、三馬が片言資料の影響を受けていたのではないかという可能性を導き出した。

(2) そこで、三馬所蔵の片言資料を探したところ、国立国会図書館に三馬の蔵書印が押された「まこと草」という資料があることを発見した。そこで「かまど詞大概」所収の片言と『まこと草』の片言の比較を行い、『まこと草』が「かまど詞大概」に影響を与えた書の一つではないかと結論付けた(「式亭三馬所蔵『まこと草』に関して『片言』等との比較を通して」『川村学園女子大学』24巻1号、2013.3刊行)。

これらの研究から、三馬蔵書は三馬の言語描写に影響を与えている可能性が高く、三馬蔵書の調査の必要性があると考えに至った。

(3) しかし、三馬の言語描写がいかなる書物から影響を受けていたかという視点からの研究は、ほとんどなされていない。書肆であった三馬は多くの書を所蔵していたと考えられるが、現在のところ三馬の蔵書目録は発見されておらず、三馬の蔵書は、三馬の蔵書印が押された書(三馬蔵書印書)により知られるのみであり、これらの三馬蔵書印書の分類・整理、さらにその分析に関しては、これまで行われてきていないという現状であった。

## 2. 研究の目的

(1) 本研究では三馬蔵書印書の調査を行い、蔵書印の分類と内容の分析を通し、三馬の著

作に使用される言語との関係を探ることとした。今回は、三馬蔵書印書が纏まって残されている国立国会図書館所蔵の書を中心に調査を行うこととした(既に予備調査により、国会図書館に三馬蔵書印書が100冊近く所蔵されていることを確認した)。これらの三馬の蔵書を調査することにより、三馬が蔵書からいかなる影響を受け、自身の言語描写に生かしていたかを探り、三馬の言語描写に関する新たな側面を導き出すことを本研究の第一の目的とした。

(2) 蔵書印調査とともに、三馬の交友関係を知る上で重要な資料である三馬自筆本「式亭雑記」(大東急記念文庫所蔵『雑記』函架番号<21-113-1274>)の調査を行った。自筆本は『続燕石十種』第一巻所収「式亭雑記」(国書刊行会編 1908)中央公論社版の『続燕石十種』(1980)に翻刻されているが、中央公論社版の「式亭雑記」の解説には、自筆本が所在不明であるため、「校訂にあたっては慶應義塾大学附属図書館の抄録写本を参照した」とされている。この中央公論社版の解説から、中央公論社で活字化された際は、自筆本の確認が行われていないことがわかる。「式亭雑記」は、三馬の私的側面や交友関係が知られる貴重な資料であるだけに、より正確な内容を確認する必要がある。そこで、今回は自筆本の調査並びに翻刻、また『国書総目録』に記されている「式亭雑記」の抄録写本の調査(6種)を行うことにした。

## 3. 研究の方法

(1) 国立国会図書館所蔵の三馬蔵書印書調査は、次のような方法で行った。

まず、国文学研究資料館の蔵書印データベース並びに『新編蔵書印書』(日本書誌学大系 79 2001)『蔵書印提要』(日本書誌学体系 44 1985)『人と蔵書と蔵書印』(国立国会図書館編 2002)等でも確認を行い、三馬の蔵書印の種類を把握した。

次に、国立国会図書館の検索システムを利用し、三馬蔵書印書を抽出した。国会図書館では蔵書印データベースは作られていないが、注記に蔵書印のデータが記されているので、蔵書の詳細検索にキーワードを入れることにより、三馬蔵書印を抽出することができる。本研究ではこのシステムを利用した。

(2) 「式亭雑記」に関しては、大東急記念文庫所蔵の自筆本の調査とともに、『国書総目録』に記されている「式亭雑記」の抄録写本(6種)を調査し、書写した人物や写本の内容を比較検討することにした。

## 4. 研究成果

(1) 国会図書館所蔵三馬蔵書印書は、検索システムにより、93冊の蔵書印書を抽出した。これらに押された蔵書印の分類並びにジャ

ソルの分類を行い、蔵書印とジャンルの関係性を導き出した表1参照。また、蔵書印書には三馬の識語が記されている書18冊を利用し、識語を字母翻刻することにより、三馬自筆の仮名字体の特徴の一端を明らかにした表2参照（「式亭三馬の蔵書 国会図書館所蔵三馬蔵書印書を中心に」『川村学園女子大学大学院研究年報』第4号 2105.3 刊行）。

ジャンル	印記	数値	ジャンル	印記	数値	
黄表紙 56	式亭	37	歌謡 3	式亭	2	
	式三馬	16		式亭・三馬 (狭型)	1	
	式亭・式三馬	2		赤本 1	式亭・洒落斎	1
	三馬 (狭型)	1		仏教 1	式亭・三馬 (狭型)	1
浄瑠璃本 6	式亭	1	説話 1	式亭・三馬 (狭型)	1	
	式亭・三馬 (狭型)	2	歌字 1	式亭	1	
	式亭・三馬 (角型)	1	室町物語 1	式亭	1	
	式亭・洒落斎	1	歌舞伎 1	式亭・三馬 (狭型)	1	
	式亭・三馬 (狭型)・洒落斎	1	語学 1	式亭	1	
洒落本 3	式亭	2	記録 1	式亭・三馬 (狭型)	1	
	式亭・三馬 (狭型)	1	漢学 1	式亭・三馬 (狭型)	1	
評判記 3	式亭	2	合巻 1	三馬 (狭型)	1	
	式亭・三馬 (狭型)	1	浮世草子 1	式亭	1	
青本 3	式亭	3	絵本番附 1	式亭・三馬 (狭型)	1	
黒本 2	式亭	2	役者評判記 1	式亭・三馬 (狭型)	1	
晒本 2	式亭	2	実録 1	式亭	1	
計					98	

表1 国会図書館所蔵三馬蔵書印書

あ	安8 阿9	い	以6	う	宇5	え	衣0	お	於2
か	加0 可7 賤1	き	幾5	く	久3	け	計1 介2	こ	己4
さ	左5 佐	し	之26	す	寸3 春1	せ	世2 勢8	そ	曾2
た	太0 多13 堂1	ち	知0	つ	川2 津3 都2	て	天22	と	止29
な	奈7 那1	に	仁2 尔21 耳1	ぬ	奴1	ね	彌 (禰) 0	の	乃24 能12 農1
は	波2 盤7 八4 濁1 者2 濁1	ひ	比3 悲1 飛1	ふ	不11 婦2	へ	β 2	ほ	保0 本1
ま	未2	み	美0 三2	む	武5 無2	め	女7	も	毛8
や	也3			ゆ	由1			よ	与12
ら	良6	り	利20 里5 李3 理1 梨1	る	留6	れ	礼6 連1	ろ	
わ	和1	ゐ	ヰ0			ゑ	惠1 衛1	を	遠26 越1
ん									

表2 三馬自筆の識語に見る仮名字母

三馬自筆の識語は、他機関に所蔵されている三馬の蔵書にも多数記されている。これらの資料は、三馬自筆の仮名字体の特徴を探る上で、貴重な資料と考える。今後他機関所蔵の三馬蔵書も調査していく必要性があると考える。

(2) 国立国会図書館三馬蔵書印書の中からは、唐話関係の資料として『五色賦』が見つかった。本書を調査した結果、『五色賦』の後半部分に含まれる「唐俗語」が岡島冠山『唐話纂要』から抄録されたものであることが明らかになった。また、「唐俗語」の漢語の脇には、唐音が記されている語があり、その中で「サ°」「テ°」「モ°」など、特殊な半濁音符の表記が観察された。三馬も著作の中でサ行力行夕行に半濁音符を使用する例があり、三馬の半濁音符の表記には、唐話資料の影響が考えられる。『五色賦』の発見から、三馬と唐話の接点がより導き出された（「式亭三馬所蔵『五色賦』所収の唐話に関して」『川村学園女子大学紀要』第26巻1号 2015.3 刊行）。

三馬所蔵の唐話関係の書には、他に、九州大学附属図書館所蔵の『雑纂訳解』がある。本書の内容は三馬著の『浮世床』に見られ、三馬と唐話の関係は今後さらに他大学の三馬蔵書印書の調査を行うところから明らかにできるものとする。

(3) 「式亭雑記」抄録写本の比較は、まず『国書総目録』記載の6種の調査から始めたが、調査する中でさらに4種の抄録写本を発見した。これらの抄録写本は、大きく二つの系統に分類される。一つは江戸の書肆達摩屋五一自筆の抄録写本を写本したもので、この系統は7冊ある。このうち3冊は同じ手である。もう一系統は、「好古堂（人物不明）」が書写したもので、3冊とも同筆である。（『式亭雑記』諸本に関して 八種の抄録写本の調査から 『近代語研究』17集 2013.9 刊行）。

二つの系統のうちの一系統の原本となる江戸の書肆達摩屋五一自筆「式亭雑記」（慶應義塾図書館所蔵）を調査翻刻し、写本に記された書き込みと、三馬自筆本「式亭雑記」の書き込みを比較することにより、三馬自筆本「式亭雑記」の所蔵の変遷を明らかにした（『慶應義塾図書館所蔵『式亭雑記』 翻刻と解説』『川村学園女子大学紀要』第25巻1号 2014.3 刊行）。

(4) 自筆本「式亭雑記」を調査・翻刻により、「式亭雑記」のより正確な内容を把握した。また、通常の翻刻と合わせ、字母翻刻を行った。これにより、自筆識語の字母翻刻資料と合わせ、三馬自筆の平仮名用字法の特徴を明らかにした（『大東急記念文庫所蔵式亭三馬自筆『雑記』 影印と翻刻』武蔵野書院 2016.7 刊行予定）。

(5) 三馬蔵書を調査中、三馬の著書に記された『婦人養草』の記述から、三馬が女訓書を著作の参考に行っていることが明らかになった。『婦人養草』には「大和詞」が掲出されており、三馬の著作に見る「大和詞」が、これらの女訓書を参考に行っている可能性を見出した（『浮世風呂』に見る大和詞について 『婦人養草』の「和言（やまとことば）」との関係から』『川村学園女子大学紀要』第27巻1号 2016.3 刊行）。

また、三馬著『腹之内戯作種本』には浄瑠璃作者近松半二の『独判断』の内容が引用されていることを確認した(『浮世風呂』三編序文の変更に関して 吾山から半二へ 、『近代語研究』19集 2016.9 刊行予定)。

三馬は浄瑠璃本も数多く所蔵しており(大阪府立中之島図書館にまとめて所蔵されている)、三馬の著作との関係性を探る上でも、さらなる調査の必要性を感じる。

また、本調査の中で、三馬の著作の中に記された『婦人養草』や『独判断』等、三馬の言語描写に影響を与えた書が、今後も三馬著作の中から見いだせると考える。三馬著作の中にある人物や書名を頼りに、三馬の言語描写に影響を与えた書を洗い出していくことも一つの方法と考える。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計6件 刊行予定1件含む)

長崎 靖子、『浮世風呂』三編序文の変更に関して 吾山から半二へ 、近代語研究、査読無、19集、2016.9月予定

長崎 靖子、『浮世風呂』に見る大和詞について 『婦人養草』の「和言(やまとことば)」との関係から 、川村学園女子大学研究紀要、査読無、第27巻第1号、2016、pp.25-44

長崎 靖子、式亭三馬所蔵『五色賦』所収の唐話に関して、川村学園女子大学紀要、査読無、第26巻1号、2015、pp15-41

長崎 靖子、式亭三馬の蔵書 国会図書館所蔵三馬蔵書印書を中心に 、川村学園女子大学大学院研究年報、査読無、第4号、2015、pp.1-18

長崎 靖子、慶應義塾図書館所蔵『式亭雑記』 翻刻と解説 、川村学園女子大学紀要、査読無、第25巻1号、2014、pp.17-57

長崎 靖子、『式亭雑記』諸本に関して 八種の抄録写本の調査から 、近代語研究、査読無、17集、2013、pp.271-289

[学会発表](計2件)

式亭三馬の言語描写 三馬蔵書印書の調査から 、国際日本学研究所、2014.12  
達摩屋五一識語『式亭雑記』抄録写本に関して、日本女子大学大学院の会、2013.9

[図書](計1件刊行予定)

長崎 靖子、武蔵野書院、大東急記念文庫所蔵式亭三馬自筆『雑記』影印と翻刻、2016.7 刊行予定、400

## 6. 研究組織

(1)研究代表者

長崎、靖子(NAGASAKI, Yasuko)  
川村学園女子大学・日本文化学科・教授  
研究者番号: 60419794